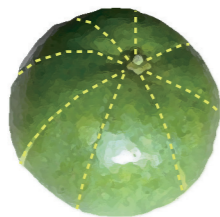


広がるカーブチー屋根

カーブチーの表皮を広げたような屋根を構え、包含する空間を感じながら、さわやかに楽しい思い出づくりができる場所をつくる。



本部町特産カーブチーを



くし切りにして

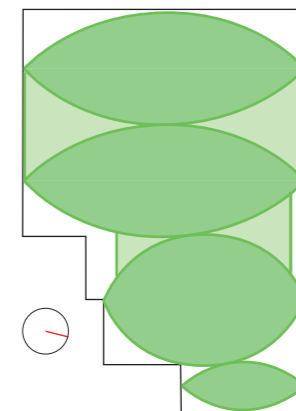


広げて配置する平面イメージ



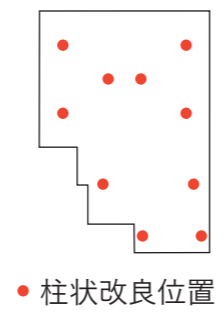
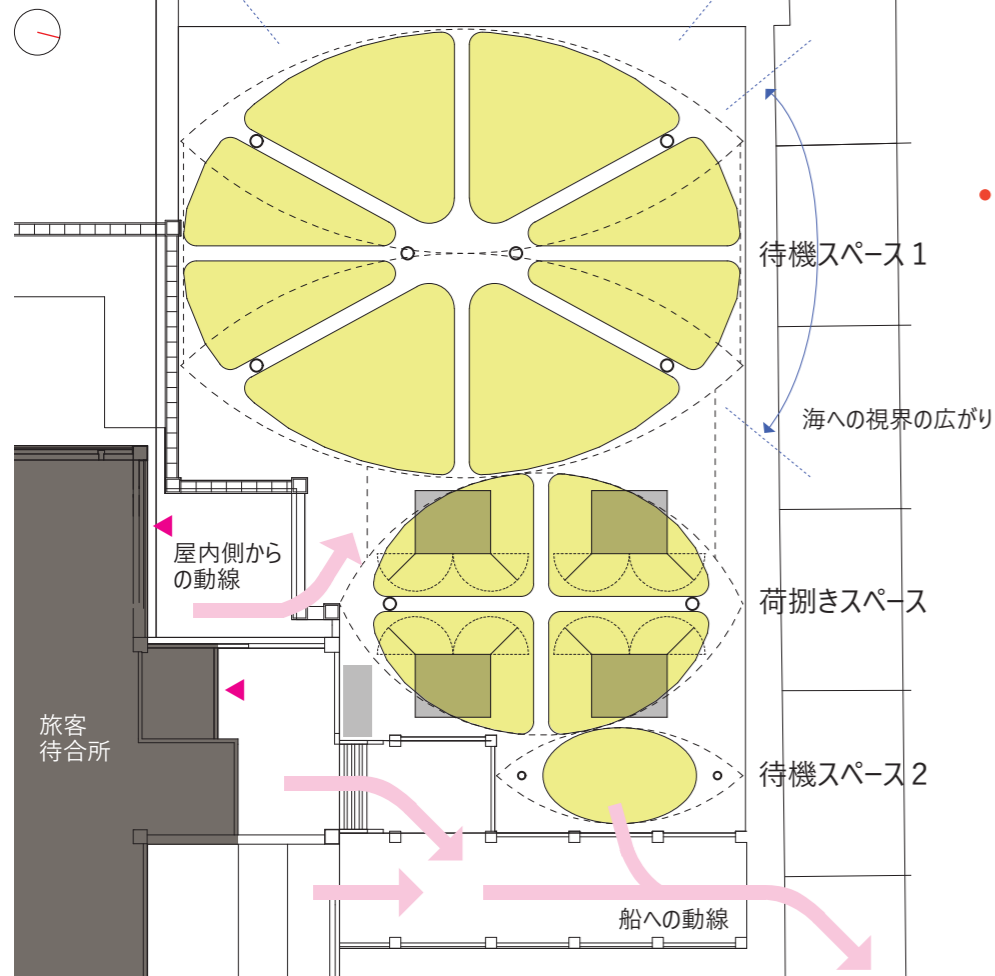
待機スペース2

■**利便性を考慮したゾーニング**
クランクしている敷地の形状に合わせるよう西側に広い待機スペース1を設け、旅客待合所からの動線側に1クラス分確保した待機スペース2を配置した。手荷物をコンテナに入れる荷捌きスペースは、利用しやすいよう船への動線にも近い2つの待機スペースの間に配置した。



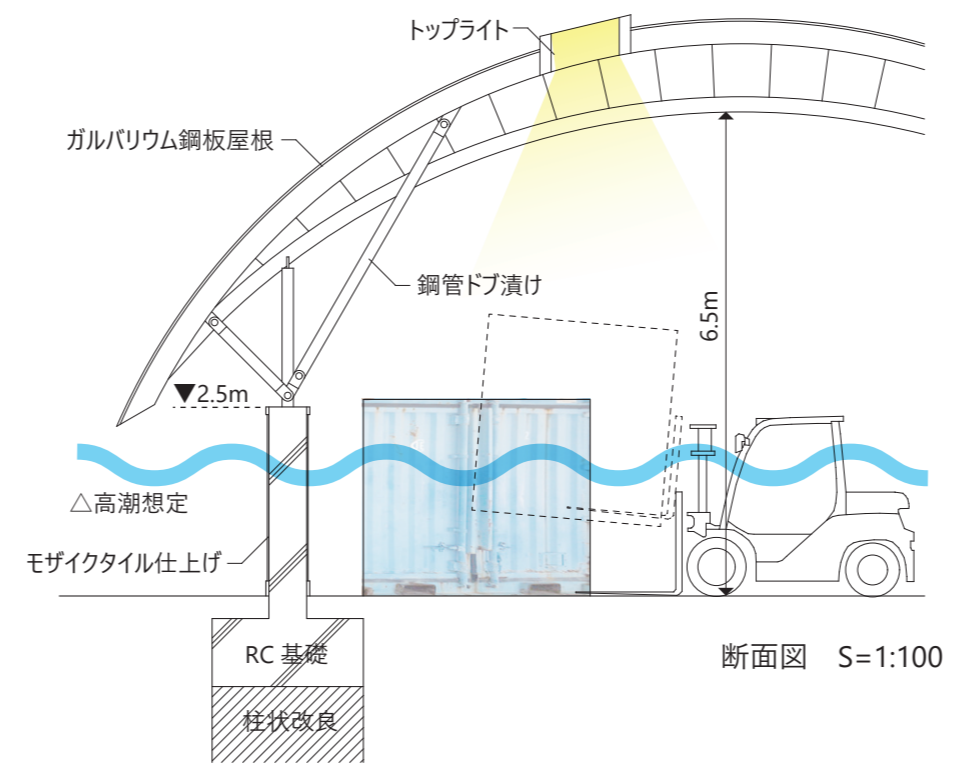
■**広げてつなげる屋根の配置**
それぞれのスペースに必要な面積の屋根をかけるため、敷地の奥行きに合わせ伸縮するように屋根を配置した。婉曲部分で屋根をつなげ大きな屋根の間も覆うことで、利用者が雨に濡れず西側の待機スペースまで行けるように配慮した。

平面図
S=1:300

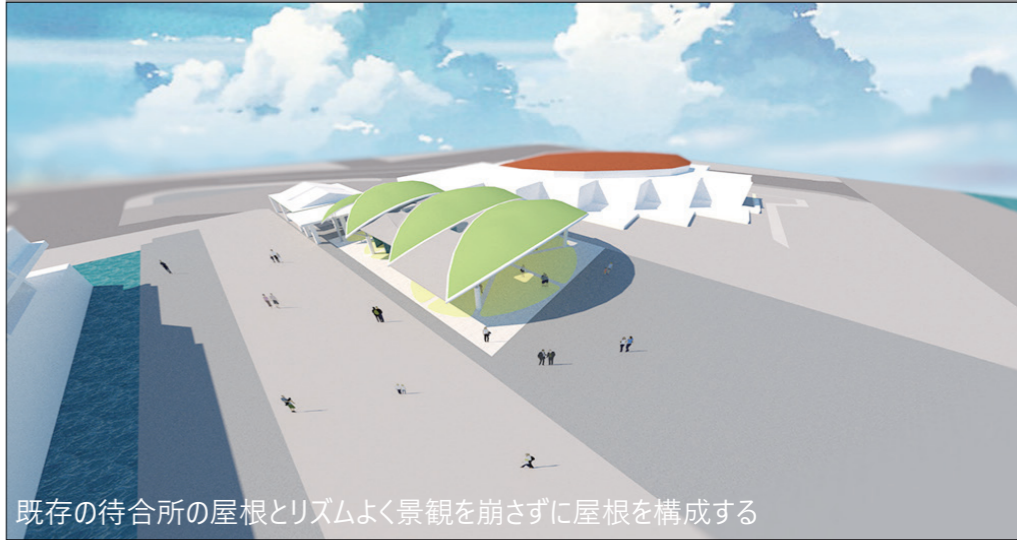
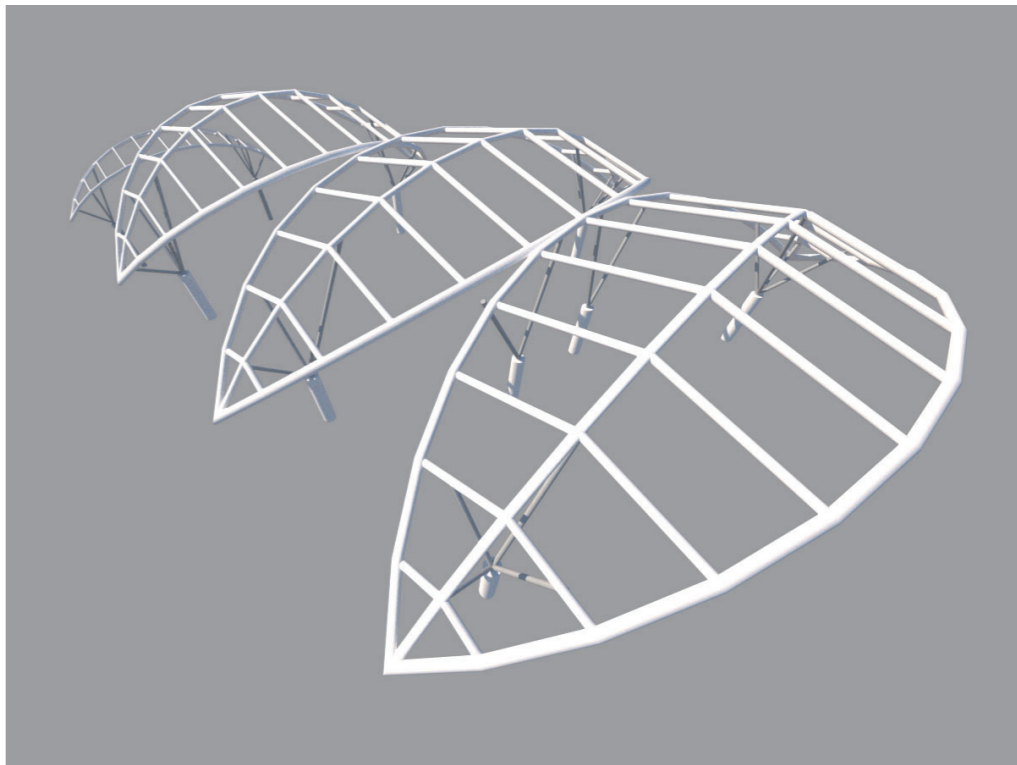


■数量を抑えた地盤補強の配置
 構造物を持たせるため、基礎下には地盤補強として柱状改良を施し支持力を確保することで沈下の恐れのないようにした。また、ポイントを絞って柱及び基礎を配置することでコストが増大しないよう考慮した。

■円形鋼管で組む表皮
 基礎から伸びる RC 柱の上部にピン接合の円形鋼管支柱を設けることで屋根を支持する。カーブチーの果肉を覆う白い筋のように梁を設け、屋根同士をつなげることで自然な形で水平剛性を確保する。



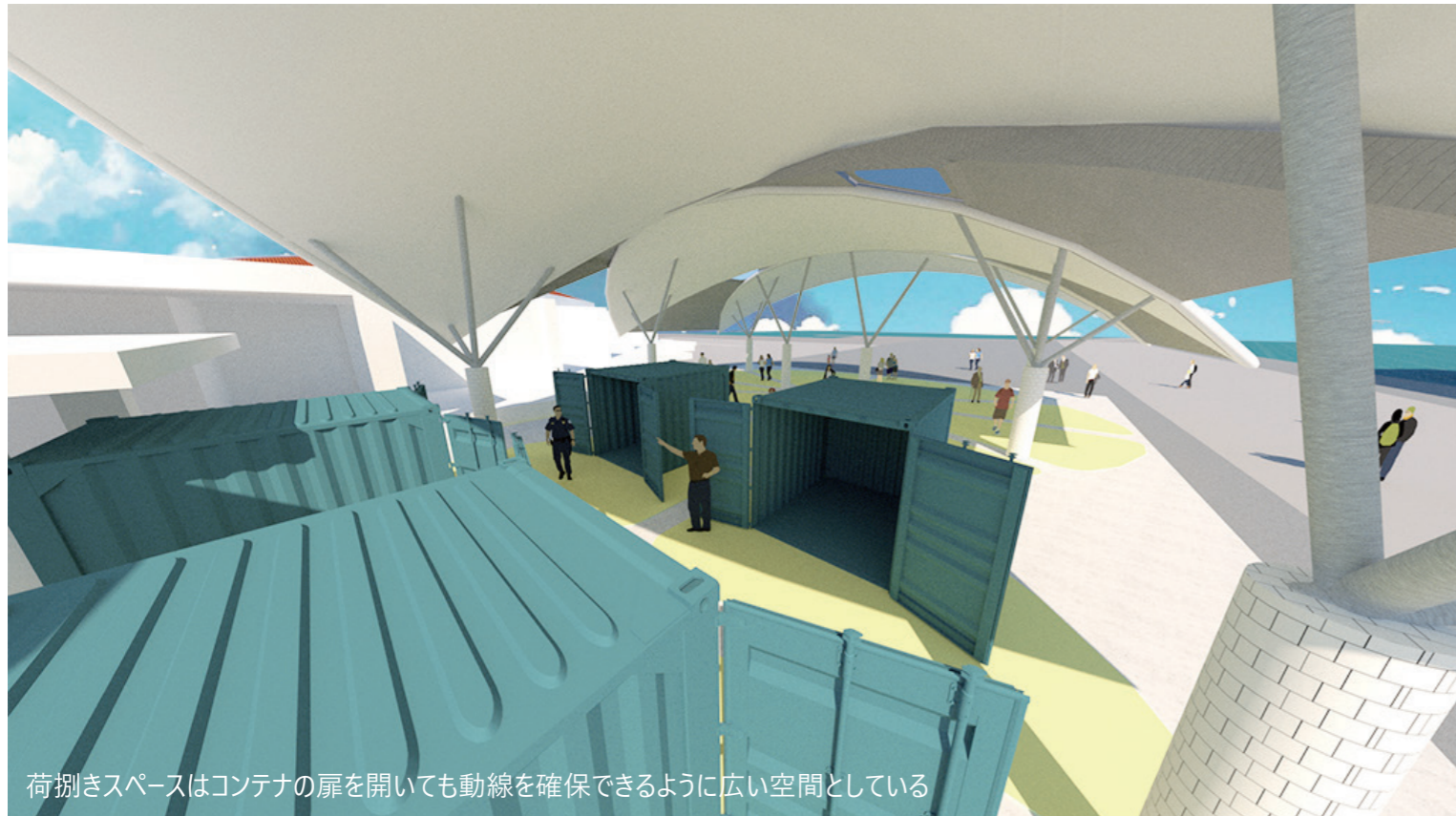
■高潮対策の RC 立上りとゆとりのある上部空間
 敷地は海に程近い沿岸部のため、台風時の高潮を想定し地盤面から 2.5m の位置まで基礎から RC 柱で立上りをつくる。荷捌きスペース上部はフォークリフトで荷揚げをした際に支障のないように余裕のあるスペースを確保する。



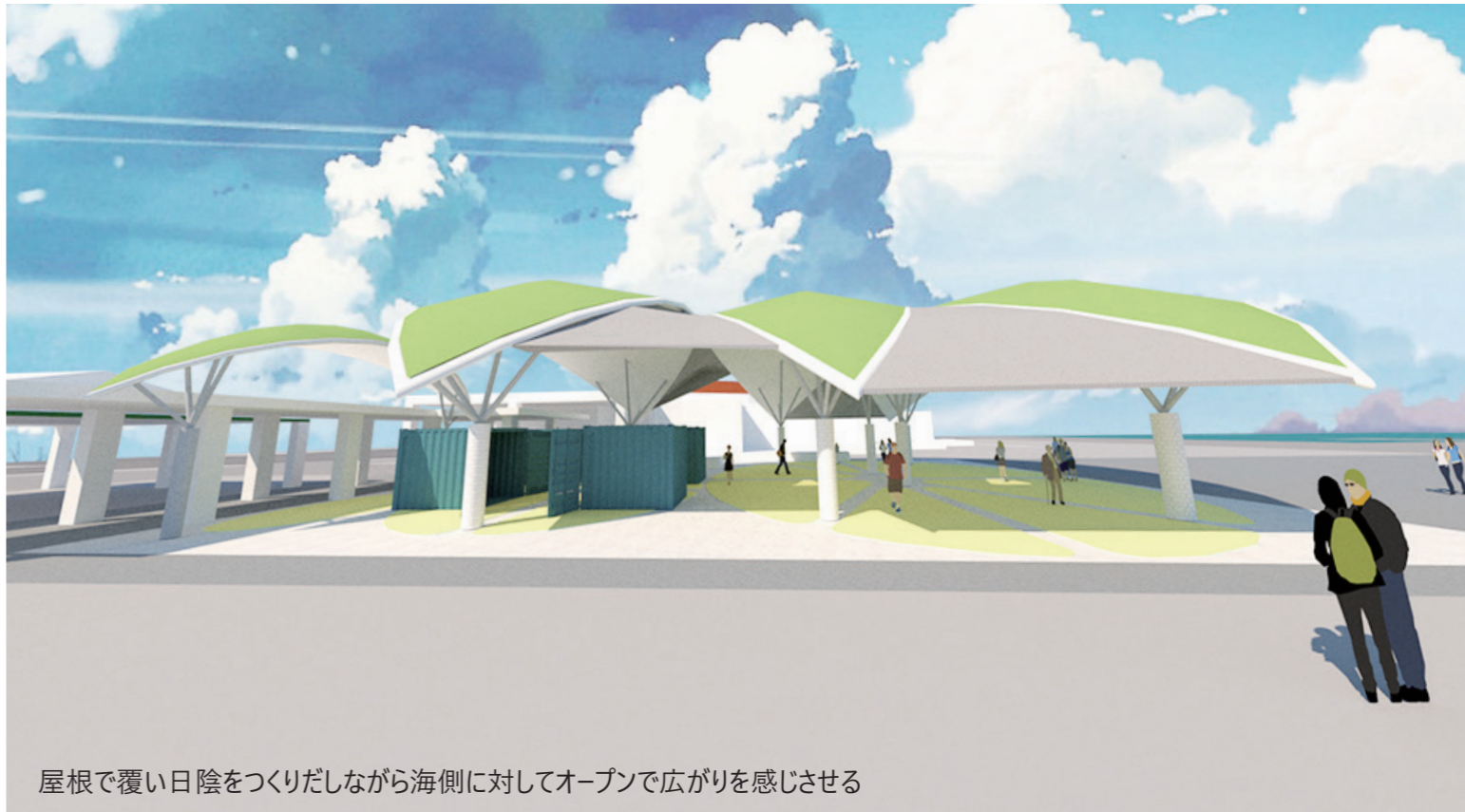
既存の待合所の屋根とリズムよく景観を崩さずに屋根を構成する

■グルーピングのできる果肉模様

床には果肉を模した塗装を床に施し修学旅行生のグループ分けを容易にし、クラスごとの乗船を考慮し待機スペースを大小に分け配置した。荷捌きスペースにはコンテナ配置箇所と利用客動線を塗り分けし安全性に配慮した。



荷捌きスペースはコンテナの扉を開いても動線を確保できるように広い空間としている



屋根で覆い日陰をつくりだしながら海側に対してオープンで広がりを感じさせる